学園都市大学古文書研究会

第2号
2013年12月13日発行

発行：学園都市大学古文書研究会
発行責任者：代表　中村和男

特別講座
「戦国時代の八王子の古文書」

八王子郷土資料館学芸員
小林　央（おう）氏

八月二十三日（金）、小林　央（おう）氏（八王子郷土資料館学芸員）を講師にお迎えして開かれました。

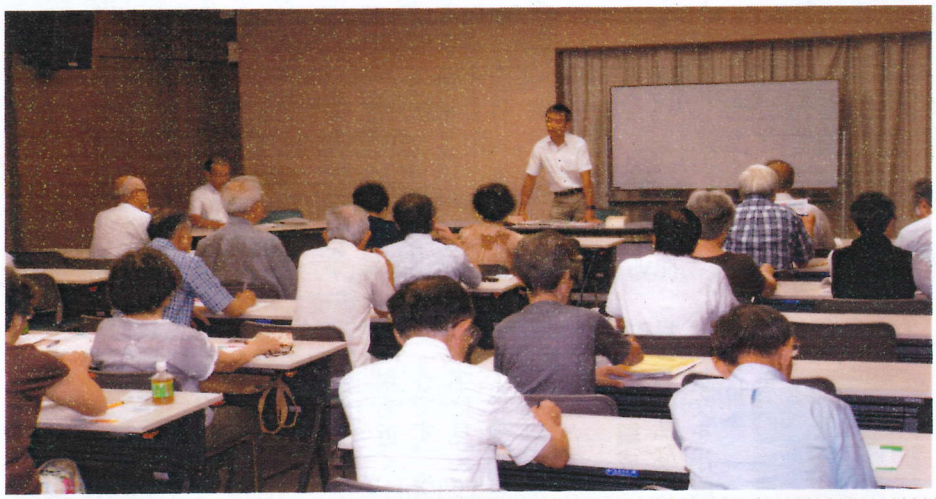
始めに、戦国期の資料の残存状況について、資料は個人所有のものが多いとのこと。南北朝期の大石氏の背景についての解説をいただき、その後資料の精察に入りました。

まず貴重な高尾山薬王院文書より、北条氏康（氏照の父）の判物（はんもつ）（永禄三年）、薬王院別当の制札（せいさつ）について解説がありました。この頃は、上杉氏との関係が緊迫しつつある時代であったとのこと。また、現存する地名である根小屋、瀧山などが書かれており、一気に話に引き込まれていきました。

宝生寺に出した氏康の判物では、宝生寺は北条氏の帰依厚く、永禄十年頃、西寺方より瀧山城下へ（現在の梅坪町あたりか）移ったのではないか、など興味深い話もありました。

続いて天正十八年の八王子城落城へと話は及び、武田家の家臣から、徳川家の家臣となり、関東代官頭となった大久保長安の判物（天正十九年）の資料解説へとひろがっていきました。

資料をもとに、宝生寺、極楽寺、大楽寺など、身近な寺や年貢の話などから大久保長安まで、時代にして永禄・天正年間を一気にお話しいただきました。会員一同時間を忘れるひとときでした。



金徳塵劫記の学習について

今年度五月～七月の学習会課題として取組んだ「金徳塵劫記」は、和算の教科書として江戸時代に編纂された数多くの「塵劫記」本の一つであり、解読の外に数学の知識も得られるという一挙両得の課題であった。各グループ毎に課題に取り組み、その後各グループの担当者が発表を行った。解読は勿論の事、和算の説明に就いてはご自身で資料を作成して説明された方もおり、又、ご自身で調べられた知見に就いて披露して下さる方等、会員の方々の熱心さが伝わる雰囲気の中で古文書の知識の深まる学習会であった。

委託教材について

今年度の解読委託教材の内容を簡単に紹介します。

『皇風大意』（東G）は、明治のはじめの異国との想定問答集で、鈴木重嶺（しげね）の作です。重嶺は著作も多く、本書は四十八歳の作品です。

『西俗一覧』（西G）は、明治二年の版本で、近代初期の外国情報を知る好資料です。

『外国征伐略記』（南G）は、日本と主に東アジア諸国との交戦の記録を綴ったもので、日本外交史の教材としても大変興味深い内容です。

『太郎八まん亀附録孝女千世伝』（南G）は、天明三年（一七八三年）に刊行されたもので、江戸期に人口に膾炙したおとぎ話です。

『光圀黄門光国（圀）卿教令』（北G）は、正徳二年（一七一二年）の刊行、奥書に「水戸黄門光國被示家臣候御條目也」とあり、徳川光圀の家臣への教訓書です。

いずれも解読されていない文書ですので、当会の解読成果が研究者に認められる日が来ると確信しながら、尊い作業を進めていきたいと思います。

（顧問　小林正博筆）